

第2期総合戦略（2022（令和4）～2026（令和8）年度の5か年）

人口ビジョン

中長期展望（2060年を視野）

I 人口の現状分析

- ◎ 2013(平成25)年度以降、自然動態、社会動態ともに減少
- ◎ 合計特殊出生率は、全国平均を上回ってきたが、2013(平成25)年に1.42となり、全国平均を下回る
- ◎ 若い世代の九州圏や大都市圏への転出が顕著
- ◎ 中長期的には人口減少は避けられず、このまま推移すれば、老年人口すらも減少する本格的な人口減少時代へ

II 人口の将来展望

- ◎ 人口の現状分析や市民意識等調査の結果、本市の特性も踏まえ、目指すべき将来の方向と、人口の将来を展望

1. 目指すべき将来の方向

目指す姿 つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま

【基本的視点】

- ① 若い世代を中心とする人口流出の抑制
- ② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ③ 本市の魅力を生かした交流人口の拡大
- ④ 生涯にわたって生き生きと暮らせるまちづくりの推進

2. 将来展望

- ◎ 2010(平成22)年：約60万人
- ◎ 2060(令和42)年：51.5万人程度
- ◎ 人口構造の若返り

【参考】

- ◎ 社人研推計ベースでは、2060年は41.7万人

基本目標

1. 稼げるしごとで 活力を「つくる」

安定した雇用や地域の活力を生み出す まちの創造

- 事業所数 27,279事業所 ⇒ 27,300事業所
- 従業者数 274,569人 ⇒ 260,200人

2. 結婚・出産・子育ての 希望を「かなえる」

市民それぞれが希望どおりに家庭を築く ことができるまちの創造

- 出生数 4,788人 ⇒ 25,000人(5年間)
- 「安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」と感じる市民の割合 38.2% ⇒ 46.6%

3. ひとが集うまちの 魅力を「みかく」

“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造

- 宿泊観光客数 207.6万人 ⇒ 400万人

4. ひと・まちを 多彩に「つなぐ」

持続性と発展性を備えたまちの継承

- 本市の移住関連施策を通じた移住者数 121人/年 ⇒ 600人(5年間)

主な施策と重要業績評価指標(KPI)

重点戦略

重点的かつ先駆的な取組

1. “世界に選ばれるまち KAGOSHIMA” 推進プロジェクト

【ねらい】海外からの交流人口の拡大による地域経済の活性化

(1) インバウンド対応の強化

- ① 各市場の特性に応じた観光プロモーションの展開
- ② 外国人観光客向けの新たな魅力の創造
- ③ 安心快適な受入環境の整備 ④ インバウンド対応人材の育成
- ⑤ クルーズ船の観光客が鹿児島島の魅力を体験できる環境づくり

(2) MICEの積極的な誘致

- ① より経済効果の高いMICEの誘致
- 【KPI】 外国人宿泊観光客数 6.5万人 ⇒ 60万人
- 【KPI】 1人1泊当たりの外国人観光消費額 30,700円/人泊 ⇒ 33,000円/人泊

2. “次代につなぐ ふるさと担い手” 創出プロジェクト

【ねらい】若者の定着、関係人口の創出による地域の将来を支える 人材の確保

(1) ふるさと教育の推進と大学との連携強化

- ① 地域に根ざした特色ある郷土教育の推進
- ② まちづくり提言の機会の創出 ③ 大学との包括連携の推進
- 【KPI】 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合の全国との比較 小6 +1.3、中3 +2.8 ⇒ 小6 +2.7、中3 +6.0
- 【KPI】 大学との新規連携事業・取組数 7件/年 ⇒ 100件(5年間)

(2) 関係人口の創出・拡大

- ① 都市ブランディングの推進 ② 市外在住者への体験機会の提供
- 【KPI】 首都圏等における体験機会となるイベント等への参加者数 3,629人 ⇒ 80,000人

3. “デジタル技術で豊かなまち” 創造プロジェクト

【ねらい】デジタル技術の活用によるまちの活力や暮らしの質の向上

(1) 地域産業の生産性向上

- ① 中小企業のICT等活用支援 ② ICT関連産業の振興
- ③ スマート農林水産業の推進
- 【KPI】 ICT関連企業の立地協定件数 1件/年 ⇒ 15件(5年間)
- 【KPI】 スマート農林水産業関連技術の導入件数 16件/年 ⇒ 65件(5年間)

(2) 市民生活の利便性向上

- ① 全世代におけるICTリテラシー向上の推進 ② 教育の情報化の推進
- ③ ICTの活用による市民サービスの向上
- 【KPI】 授業でコンピュータなどのICTを「ほぼ毎日」使用したと回答した児童生徒の割合の全国との比較 小6 -1.1、中3 +0.4 ⇒ 小6 +2.0、中3 +2.0
- 【KPI】 電子申請利用件数 29,441件 ⇒ 43,000件

積極戦略

人口減少に歯止めをかける取組

(1) 地域産業の稼ぐ力の強化

- ① 地域産業の競争力強化 ② 新事業・新産業の創出支援
- ③ 人材の確保・育成
- 【KPI】 新たな事業展開に取り組む事業者数 17事業者/年 ⇒ 110事業者(5年間)

(2) 魅力的で安定した雇用の場の確保

- ① 企業立地の推進 ② 若者、女性、高齢者等の就労支援
- 【KPI】 企業立地件数 8件/年 ⇒ 40件(5年間)

(1) 若い世代の経済的安定

- ① 若者の就業支援 ② 貧困の世代間連鎖の解消
- 【KPI】 鹿児島公共職業安定所(ハローワークかごしま)管内の新規卒業者の県内就職率 65.1% ⇒ 66.6%

(2) 結婚の希望の実現

- ① 次世代を担う若者のライフプランニング支援 ② 結婚への支援
- 【KPI】 婚活事業への参加者の満足度 86.1% ⇒ 90%

(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

- 【KPI】 乳幼児健康診査の受診率 97.8% ⇒ 100%

(4) 子育て支援の充実

- ① 子育て支援施設の整備・充実
- ② 放課後における児童の健全育成 ③ 子育て世帯への経済的支援
- 【KPI】 保育所等・児童クラブの待機児童数 82人・42人 ⇒ 0人

(5) 仕事と子育ての両立

- 【KPI】 男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとしたセミナー等の受講者数 99人/年 ⇒ 550人(5年間)

(1) 個性豊かな資源の価値向上

- ① オンリーワンの魅力創出
- ② 地域特性を生かした創造性豊かな景観の形成・活用
- ③ 花や緑、公園緑地の充実
- 【KPI】 1人1泊当たりの観光消費額 28,800円/人泊 ⇒ 31,000円/人泊

(2) ひとが集うまちなか環境の充実

- ① 観光客受入体制の充実 ② まちなかのにぎわい創出・回遊性向上
- 【KPI】 中心市街地の店舗のうち営業している店舗の割合 89.4% ⇒ 91.2%

適応戦略

人口減少社会に適応する取組

(1) 人口減少・少子高齢化を見据えた持続可能なまちづくりの推進

- ① 都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成
- ② ストックマネジメントの強化 ③ 住宅団地の活性化
- 【KPI】 住宅団地の活性化に向けて地域主体で実施したまちづくり活動の件数 3件/年 ⇒ 36件(5年間)

(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成

- ① 住民主体の地域づくりの促進 ② 市民との協働の推進
- ③ 多文化共生の推進
- 【KPI】 多文化共生事業への参加者数 1,938人 ⇒ 3,200人

(3) 国内外の都市との連携・交流の推進

- ① 国際交流の推進 ② 国内の都市との連携・交流の推進
- 【KPI】 国際交流事業への参加者数 1,367人 ⇒ 2,120人

(4) 移住の促進

- 【KPI】 移住セミナー等における延べ面談件数 79件/年 ⇒ 800件(5年間)